

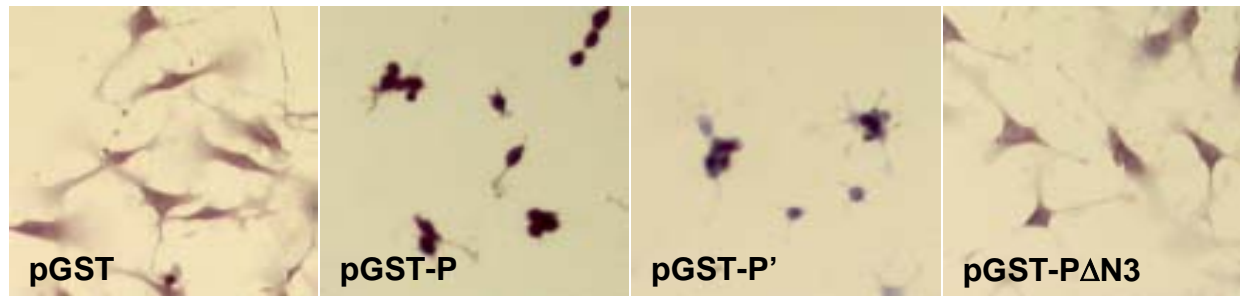
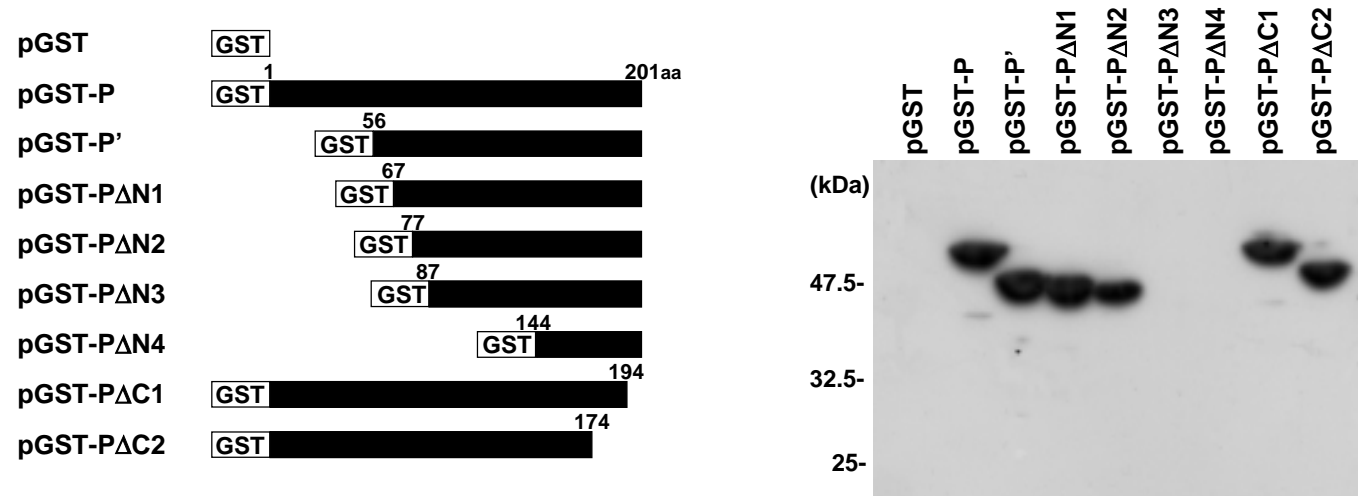
表1. 慢性疲労症候群患者におけるボルナ病ウイルスの抗体調査

検体	性別	抗BDV抗体		BDV RNA ^b
		p24	p40	
#1	F	-	++	-
#2	M	-	+	-
#11	F	-	+	+
#12	F	-	+	-
#13	M	-	++	-
#17	F	-	++	NT ^c
#18	F	-	++	-
#22	M	-	++	++
#34	M	-	+	+
#39 ^a	M	-	++	-
#51	F	-	+	-
#54	M	-	+	-
#55	F	-	+	NT
#56	M	-	++	NT
#61	F	+	+	NT
#63	F	-	+	NT
#66	M	-	+	NT
#67	M	-	+	NT
#72	F	-	+	NT
#76	F	-	+	NT
#77	F	-	+	NT
#80	F	-	+	NT

^a 4回の異なる時期のサンプリングのいずれにおいてもp40抗体陽性

^b Nested Ez-RT-PCRによりp24あるいはp40遺伝子のいずれかが陽性

^c Not Tested



- 図1. BDV p24蛋白質上のアンフォテリン結合部位の解析
- 解析に用いたBDV p24蛋白質欠損変異体の構造。
 - Far-Western Blottingによる各種BDV p24蛋白質欠損変異体とアンフォテリンの結合の確認。
 - BDV p24蛋白質欠損変異体による神経突起伸長阻害の解析。アンフォテリンと結合能力を持たないpGST-PΔN3では、神経突起の伸長は阻害されなかった。

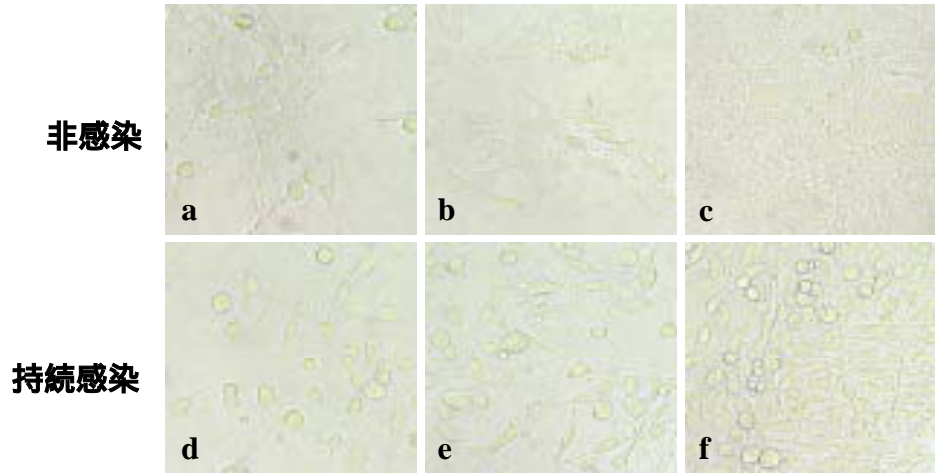
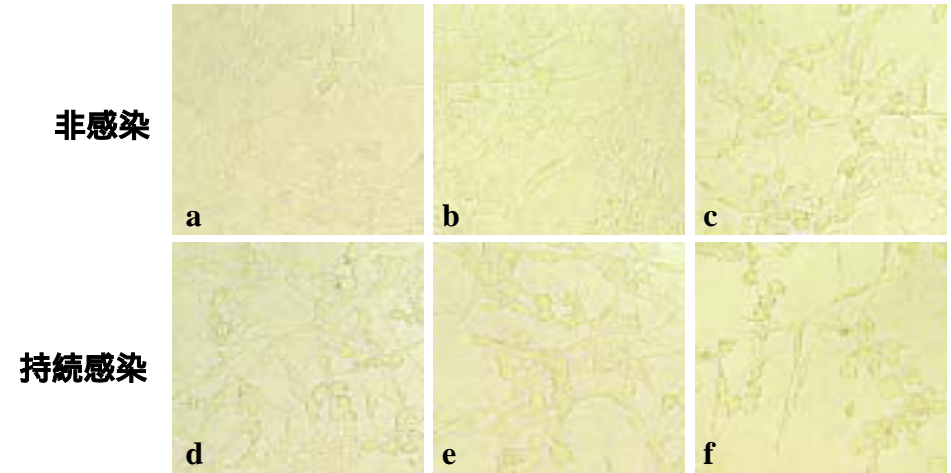
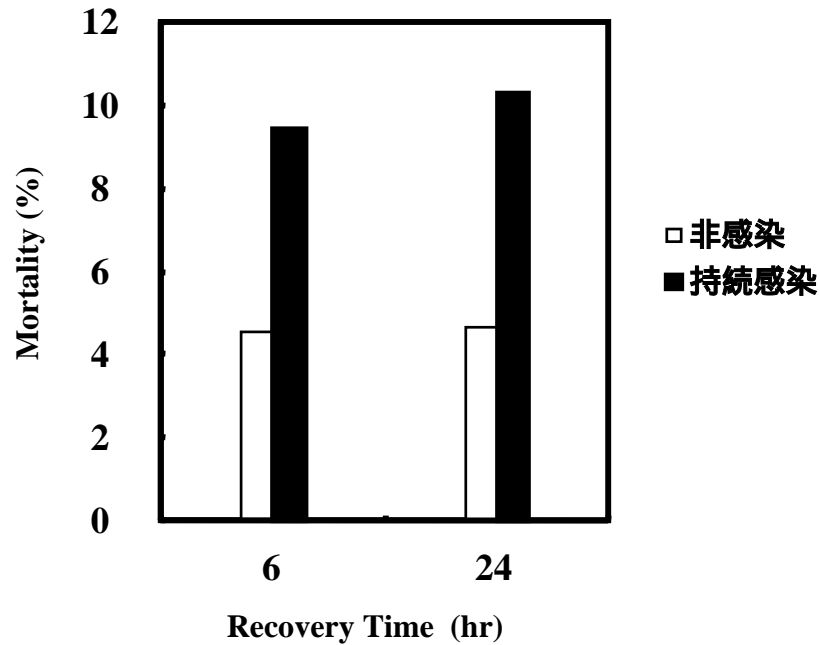
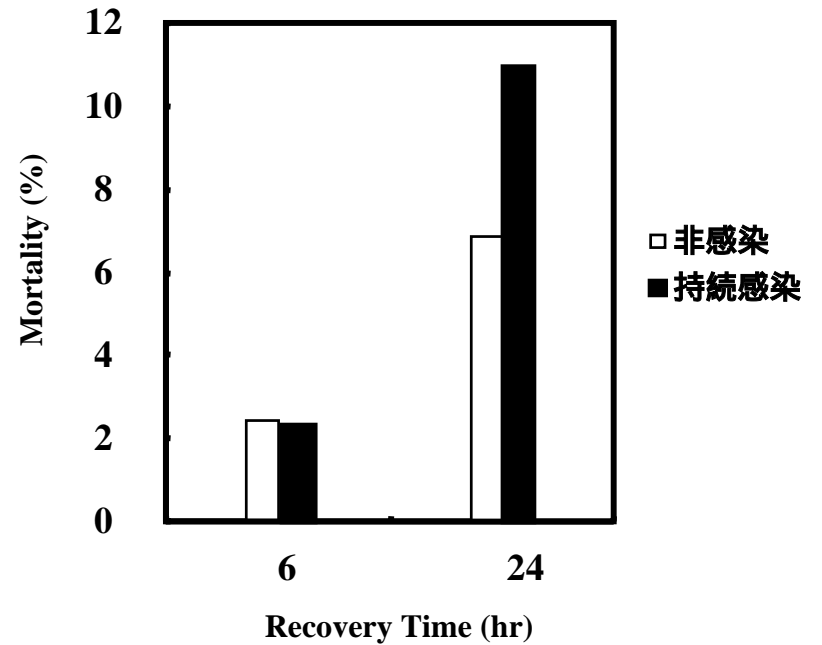
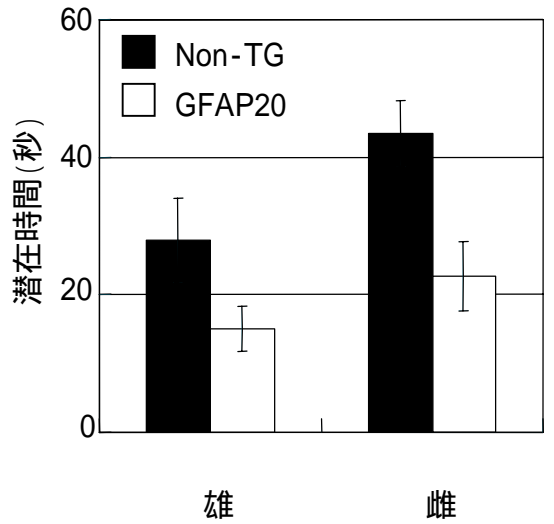
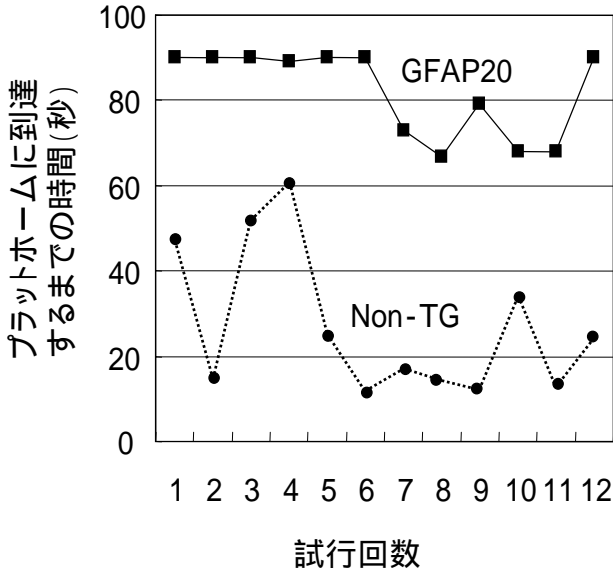
A**C****B****D**

図2. Heat shock (44) 処理 (A, B) ならびにUV照射 (C, D) 後のC6細胞の形態変化 (A, C) と死細胞率 (B, D) (a-c: 非感染細胞、d-f: 感染細胞、a, d: 0 hr、b, e: 6hr、c, f: 24 hr)

A



B

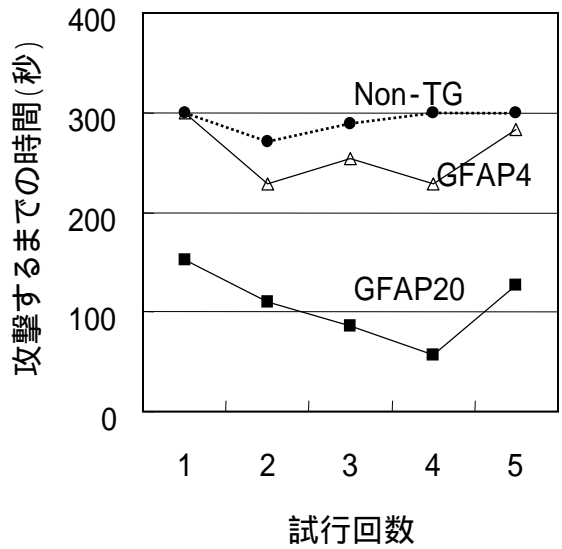
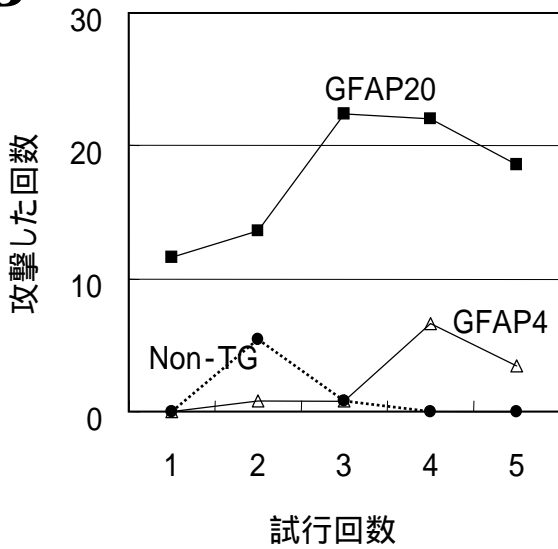


図 3. BDV p24発現トランスジェニックマウスの行動解析テスト
 A. 水迷路を用いた学習能力の解析。p24を高発現しているGFAP20系統では、水迷路における避難場所に対する記憶、学習能力が顕著に低下していた。
 B. オス同居法を用いた攻撃性の解析。p24を高発現しているGFAP20系統では、低発現系統 (GFAP4) およびコントロールマウスに比べ、顕著に攻撃性の上昇が認められた。